【科学研究費補助金　新学術領域研究】

国家の輪郭と越境

― 『 Mother India 』を読む ―

第５回研究会のお知らせ

参加自由

下記の通り、第５回「国家の輪郭と越境」研究会を開催いたします。

日時	平成２１年７月１４日（火）　１５時～１７時
場所	大阪大学箕面キャンパス　総合研究棟６階＃６０２　国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html
研究会題目	『Mother India』を読む
使用テキスト	Katherine Mayo 著『Mother India』1927年　Blue Ribbon, New York（Part Ⅴ） （テキストは配布します）

本研究会では、「地域大国」としてのインド、中国、ロシアがこれまでいかに描かれてきたのかを、多様な資料を精読して、広く検証することを目的とする。

一冊目に取り上げた『Mother India』は、アメリカ人著者Katherin Mayoが英領インド視察後に作成したものであり、Part ⅠからPart Ⅴまで全５回の研究会で扱う。第１回研究会の前半部分ではメイヨーのインド視察の概要が説明され、公衆衛生に注目したという彼女の活動内容が紹介された。後半部分では、メイヨーがインドの後進性の最大要因であると繰り返し強調した、インド人が「性的過多」であるという主張について話し合われた。第２回研究会では、インド女性の存在がいかに軽視されているのか、女児殺し、寡婦が置かれる困窮状態、女性隔離制度、女子教育の普及率の低さなど、メイヨーの指摘を追った。第３回研究会では、おもにカースト制度ならびに教育制度の問題点をメイヨーがどのようにとらえていたのかを考察した。第４回研究会では主にインドの行政問題に関するメイヨーの指摘を考察し、彼女の主張の根拠が非常に偏った、恣意的なものであったことを確認した。

偏った面のみを強調した作品だと非難されてきた同書であるが、「西洋」「近代」的な視点から描かれたインドイメージを検証する上で、非常に有益なテキストである。最終章を扱う第５回研究会では、メイヨーが描くコミュナル問題に触れながらインドイメージの成立過程と変容を考えたい。

問い合わせ先：科学研究費補助金　新学術領域研究「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局　　dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp